

認知症の進行と主な症状・対応の例

認知症は少しずつ進行し、症状や必要な対応が変わっていきます。認知症の進み方を知って、進行に合わせた対応を心得ておくことが大切です。

認知症の進行(右にいくほど発症から時間が経過し、進行している状態)

認知症の進行

本人の様子
の例

「家族の心構え・接し方など」

正常

軽度認知障害(MCI)

認知症疑い

日常生活は自立

誰かの見守りがあれば
日常生活は自立

日常生活に手助け・
介護が必要

常に介護が必要

- 物忘れの自覚がある。
- 昔から知っている物の名前が出てきにくく、「あれ」「それ」「あの人」等が増えてくる。
- 今までやっていたことなのに段取りが悪くなり、時間がかかる。

など

※日常生活に大きな支障はないので、本人も周囲も気づきにくい。

- 同じことを何度も話す、何度も聞く。
- 置き忘れ、しまい忘れが多くなる(探し物が多くなる)。
- 不安や焦燥感がある。怒りっぽくなったり、うつ傾向になる。
- 趣味や好きなことを楽しめなくなる(物事への関心が薄れる)。
- 料理の味付けが変わったと家族に言われる。
- 同じ物を購入する。

など

- 日にちや曜日、場所、季節がわからない。
- 徘徊が多くなる。
- 薬やお金の管理ができない。
- 食事や着替え、トイレがうまくできなくなる。
- いつ、どこで、なにをしたかの出来事を忘れるようになる。
- ガスの消し忘れがあり、鍋を焦がすことが多くなる。

など

- 会話がうまくできなくなる。
- 家族の顔や自分の顔が認識できなくなることがある。
- 言葉が減り、表情が乏しくなる。
- 物を見ても、それが何かわからない。
- 日中、眠っていることが多くなる。
- 排泄の失敗が増える。
- 歩行や食事など日常動作ができなくなり、いつも介護が必要。

- 地域行事やボランティアなどの社会参加・自分自身でできる取り組みを促したり、町の介護予防に関する事業の参加を働きかける。

＜町の介護予防に関する事業
地域交流サロン(各自治区)＞

自治区公民館体操

認知症予防教室

いきいき昼食会

- 「いつもと違う」「何か様子がおかしい」と思ったら、かかりつけ医や専門医、芦屋町地域包括支援センターへ相談する。
- 本人は不安に感じていることがあるので、話は聞き流すことなく傾聴し、できれば医療機関への受診へ付き添う。

- 介護で困ったことがあれば抱え込まず、早めに芦屋町地域包括支援センターや担当ケアマネジャーに相談する。
- 本人ができることは継続できるよう見守り、本人の失敗を注意することなく、出来ない部分を見極めてさりげなくフォローする。
- 家族や地域で見守り・支援する人を増やす。
- 今後の生活設計(金銭・財産管理や書類整理、医療や介護への希望等)について本人の希望を聞き、家族間でどう支援していくか話し合っておく。

- 介護サービスを上手に利用し、介護者自身の休息を大事にする。介護者自身の健康管理をおこなう。
- 本人ができることは継続できるよう見守る(間違いや失敗に対して肯定的に接する)。
- 火の不始末や道に迷った際の安全対策をとる。
- 困りごとは担当ケアマネジャー等に相談する。必要なときに様々な選択ができるよう、施設等の情報を集めたり、見学に行ってください。

- 日常生活でできないことが増えることを理解する。
- 会話が困難になったとしても、表情や行動、以前の本人の希望などを汲み取り、スキンシップなどでコミュニケーションをとる。
- 合併症を起こしやすくなることを理解する。
- 施設入所したとしても、定期的に機会をつくり、本人とのふれあいを大切にする。

＜家族支援＞介護者の交流の場へ参加(オレンジカフェ:認知症介護者の集い・認知症家族の会 あしや)

＜安心・安全＞見守りシール交付事業・遠賀中間はいかい高齢者等SOSネットワーク・防災メールまもるくん

＜サービス＞必要な段階で 介護保険の申請、介護サービスの検討 (申請手続き:芦屋町役場 福祉課 高齢者支援係へ)